

第1号様式（第7条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 市 長		平成27年 7月31日
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市左京区松ヶ崎橋上町1		報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 国立大学法人京都工芸繊維大学 学長 古山 正雄
京都市地球温暖化対策条例第22条第2項の規定により報告します。		
環境マネジメントシステムの名称	ISO14001	
適用範囲	松ヶ崎キャンパス、嵯峨キャンパス	
導入年月日	2001年 9月10日	
認証番号	JQA-EM6962	
基本方針	京都工芸繊維大学の教職員と学生は、協力して環境の保全と改善に努め、また、教職員は環境教育を通じて、研究活動はもとより日常生活においても常に環境問題に配慮しながら行動する、「環境マインド」を持った学生を育成し、21世紀の持続可能な発展に貢献する。	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	エネルギー使用の効率化：2014年度は2011～2013年度の平均使用量に対して1.5%削減（温室効果ガス排出量換算） 水使用量の管理徹底：水使用量の抑制 紙使用量削減による省資源：2014年度は2012年度比2%削減 化学物質管理の徹底：管理の徹底 実験廃液・廃棄物の管理徹底：管理の徹底 廃棄物の削減と再資源化の推進：分別・削減の徹底 高圧ガスの管理徹底：管理の徹底	
目標を達成するための取組の内容	エネルギー使用の効率化：昼休みの一斉消灯及びエアコンの停止、エアコンの設定温度の徹底、高効率照明・省エネ型機器への更新 水使用量の管理徹底：年間使用量の把握、節水の掲示 紙使用量削減による省資源：年間使用量の把握、ペーパーレス化の推奨 化学物質管理の徹底：管理データベースによる管理徹底 実験廃液・廃棄物の管理徹底：分別収集の徹底 廃棄物の削減と再資源化の推進：分別・削減の徹底 高圧ガスの管理徹底：管理データベースによる管理徹底	
目標を達成するための取組の進捗状況	エネルギー使用の効率化：高効率照明・省エネ型機器への更新計画を策定し、2011年度より順次更新している。	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	エネルギーについては、2011～2013年度平均使用量との比較で、目標値（1.5%削減）は未達成であった。これは、松ヶ崎キャンパス及び嵯峨キャンパスが買電している電力会社の変更となり、排出係数が高くなったことで温室効果ガス排出量数値が高くなったためである。その他については計画どおりに取り組むことができた。成果については、年2回マネジメントレビューを実施して報告している。	
事業活動に係る法令の遵守の状況	関連法規の遵守状況について、内部監査及び外部監査で確認を行っている。これまで違反等はなかった。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	評価・見直しの必要性については、毎年3月に委員会を開催し検討している。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。